

夏瀬の森

だより

令和六年一月二十五日 第一〇二号

田殿丹生神社 宮司 嶋田博文

謹賀新年

今年も穏やかなお天気のもとで新しい年、令和六年（紀元二六八四年）甲辰（きのえ・たつ）をお迎えすることができました。年末には総代様方にしめ縄を新しくかけ替えていただき、鳥居の前には鮮やかな門松を作り、参道にはたくさんさんの提灯を吊っていただきました。敬神婦人会の方々には境内の清掃や吉兆笹の準備に汗を流していただきました。



お陰様で、清々しく皆さんの初詣をお迎えすることができ、参拝された方々も気持ちよく感謝の心を神前にて伝えていただけることができたかと思えます。

大勢の氏子さん方とともに、地元の剣道クラブの子どもたちが御祈禱後に境内で元気に素振りをし、少年野球の子達もグラウンドから真っ赤な顔で走って来てくれて神妙な顔で必勝祈願の御祈禱を受けてくれました。また、鳥害から農作物を守っている鷹の「いぶき」ちゃんも鷹匠と共にお詣りにきてくれました。



画竜点睛を怠らず

拝殿の絵馬は冬祭りを前に卯から辰に掛け替えました。幸運と繁栄の象徴である龍は、天空で得たあらゆる願いをかなえる玉を力強

開運招福



が、画竜点睛を怠らないように心掛けながら、何事にも積極的に進んで行きたいと思っています。どうか本年もよろしくお願いいたします。

成人奉告祭 羽ばたけ田殿っ子

一月七日、今年も田殿の新成人の若人らが町の成人式終了後に揃ってお詣りしてくれました。奉告祭では勝丸優希さんが女性代表で、生駒峻宏さんが男性代表で玉串を奉奠し、これまでの感謝とこれからの無限に広がるそれぞれの夢の実現を祈願いたしました。その後は賑やかに記念撮影をし、親御さんたちと共に笑い声が境内に響くひとときを過ごしました。



十代後半に窮屈な思いをした子達、これからの大きな羽ばたきに期待しています。



鎮火祭 火の恵に感謝

師走朔日午前六時、月次祭に併せて鎮火祭を執り行いました。氏神様と火産靈神（ほむすびのかみ）に火の恵みを感じ、禍が起らないよう祝詞を奏上いたしました。今年も消防団の代表五名が鎮



火祭に出席してください。大浦団長が玉串を奉奠してくださいました。御祈祷をさせていただきます。いただいた火の用心のお札は、総代様から各字にお届けさせていただきます。火の取り扱うところにお貼りください。

粥占い神事 今年もまずは一安心

一月十五日の未明、漆黒の闇の中で粥占いを行いました。古くから伝わる鉄釜で小さな竹筒を入れて小豆粥を焚き、筒の中の粥と小豆の量で今年の農作物の出来具合を占います。今年も早生と中生のみかんの筒に少し隙間がありました。どの筒にも小豆は適量に入っており実入りに関してはひと安心しました。昨今の異常気象に負けないように、万全の備えと知恵と工夫で笑顔で収穫を迎えることができるよう、四季の祭りで祈願したく思います。



感謝の焚上げをいたしました

一月十五日午後三時から古い神札やお守の焚き上げ式を執り行いました。早朝より多くの方が境内にお札お守の他、深くその方の気持ち移っている品々を持参されました。度々ご案内させていただいているように、不燃物や有害物質が出るようなものは極力外していただき、お餅やみかんなどのお供え物もほとんどありませんでした。ご理解のほど感謝いたします。心の品々は感謝の御祈祷の後、総代さん方の手でゆつくりと丁寧に焚き上げられました。



拝殿のお屋根の葺き替え

石段を上がったところ、皆様方がお詣りを

される御賽銭箱と鈴がある建物を拝殿と申します。その瓦屋根がかなり傷んできましたので、この度瓦の葺き替えをすることにいたしました。本事業の資金について検討もしましたが、今回は神社積立金を使わせていただくこととしました。しかしながら余裕のある中の事業ではありませんので、お力をいただける方がおられましたら神社又は総代までお声をかけていただければ幸甚に存じます。神殿に末代まで記録を残し、開運厄除けを祈願させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。



能登半島地震神社義捐金

この度の能登半島地震につきまして、被害に遭われた方々には衷心よりお見舞いと一日も早い復旧をお祈り申し上げるところです。神社関係にも甚大な被害が出ており、神社界では被災神社に対して義捐金を贈ることとなりました。つきましては田殿丹生神社からも義捐金を贈らせていただく予定ですが、同じお気持ちの方がいらっしゃいましたら当社が責任をもって仲介いたしますのでお申し出ください。

厄年とは

古くは厄年は晴れの年齢と考えられており、厄年になるといいうのは社会で一定の地位を得ることを示しています。そのため、様々な災難に遭いやすい年でもあるので、心身を正常に保ち、言動を慎む必要がありま

※数え年は、誕生日前の場合には歳、誕生日を迎えている場合は、1歳を足して計算します。

男性		
前厄	本厄	後厄
24歳 (平成13年生)	25歳 (平成12年生)	26歳 (平成11年生)
41歳 (昭和59年生)	42歳 (昭和58年生)	43歳 (昭和57年生)
60歳 (昭和40年生)	61歳 (昭和39年生)	62歳 (昭和38年生)
女性		
前厄	本厄	後厄
18歳 (平成19年生)	19歳 (平成18年生)	20歳 (平成17年生)
32歳 (平成5年生)	33歳 (平成4年生)	34歳 (平成3年生)
36歳 (昭和04/平成元年生)	37歳 (昭和63年生)	38歳 (昭和62年生)
60歳 (昭和40年生)	61歳 (昭和39年生)	62歳 (昭和38年生)

す。厄祓につきましてはお気軽に尋ねてください。

令和六年厄年表

ホームページ・インスタグラム・フェイスブックでも情報を発信しています。